

## 学校経営推進費 評価報告書（2年め）

### 1. 事業計画の概要

学校名	大阪府立港高等学校
取り組む課題	授業改善への支援（生徒の学力の充実）
評価指標	①本校独自意識実態調査による図書室利用者率などの数値向上 ②英検・漢検の準2級以上合格者の増加 ③外部学力診断テストにおける生徒の学力レベルの向上・第1希望進路達成率の向上 ④年間図書館貸し出し冊数や不読率の低下
計画名	「本とのちから」～ みなと図書 Can にできること～

### 2. 事業目標及び本年度の取組み

学校経営計画の 中期的目標	<p>2 確かな学力の育成と授業改善</p> <p>(1) 新学習指導要領を踏まえ、社会の中で生きて働く「知識・技能」の習得、未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成、学びを人生や社会に活かそうとする「学びに向かう力・人間性」の涵養を行うための授業改善と教員の資質向上に取り組む。</p> <p>* 学校教育自己診断「授業は分かりやすい」(R1: 51%・R2: 68%・R3: 68%)を3年後には75%にする。</p> <p>(2) 国語力、英語力の向上とともにプレゼンテーション能力を育成する。R4 学校経営推進費（「本とのちから」～ みなと図書 Can にできること～）を活用する。</p> <p>ア 英語検定、漢字検定（進路部主導）を利用し、朝学習（教務部主導）を活用した学習習慣の確立をめざし、合格率の向上に取り組む。</p> <p>* 検定の合格率を5Pずつ向上させ3年後には目標級の15P増をめざす。英検・漢検の準2級以上の合格者の増加（25人→30人→35人）</p> <p>イ 生徒の主体的・協働的な学びを通して発表の機会を多くするなど、全ての授業で言語活動を重視した取組みを推進する。</p> <p>* 学校教育自己診断「授業で自分の考えをまとめたり発表する機会がある」(R1: 60%・R2: 66%・R3: 73%)を3年後には75%にする。</p> <p>3 自己を確立し未来を切り開く力の支援 → 豊かでたくましい人間性の育み</p> <p>→ 夢や目標を持った生徒の育成</p> <p>(1) 進路指導の充実を図る。R4 学校経営推進費（「本とのちから」～ みなと図書 Can にできること～）を活用する。</p> <p>ア チャレンジ講習（毎週7限）を有効活用し進学希望者等に対する指導を進路部・教科が主導する。進学講習体制を充実させ、生徒の進路実現に取り組む。</p> <p>イ 就職希望者に対しては、面接指導等を強化し希望先への内定率100%をめざす。</p> <p>ウ 進路指導部が中心となりキャリア教育を見直し、3年間のトータルデザインを確立し、第1希望進路達成率を向上する。</p> <p>エ 教科指導と図書活動をつなげ、活性化させることで学力レベルの向上をめざす。</p> <p>* 公募推薦等受験、一般受験での合格率（のべ）を高める (R1: 15%, 4%・R2: 25%, 25%・R3: 30%, 23.3%) ⇒ 3年後には35%, 30%をめざす。外部学力診断テストにおける国数英3教科の3年生時のC3以上の人数割合を3年後には70%をめざす。</p>
事業目標	大阪府子ども読書活動推進計画や学校図書館活性化ガイドラインおよび指示事項に示されているように、若者の文字離れ読書離れには深刻なものがあり、生徒への社会に対する関心

	<p>や知識を増やすためにも、新聞や本を用いた授業や総合的な探究の時間などの充実が今後ますます求められている。</p> <p>本校でも年に1度も図書室に行かない生徒はほぼ90%になっている。本校生徒の特徴に応じた読書活動を推進し、少しでも本を読む生徒を増やし、不読率を大阪の平均（45%）以下にすることを第1の目標とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 教科（特に英語）と図書室との連携を強化 速読・多読活動の推進。授業での図書室利用。 総合的な探究の時間での図書室利用体験。修学旅行事前学習。</li> <li>② 資格検定やキャリア教育とリンク 全員受験の英検や漢検への取組みやキャリア教育に関することに関係づけた本を増やす。</li> <li>③ 検定や第1希望進路達成への支援 入試や英語検定に向けて外部人材の活用により対策講座を実施。</li> <li>④ 気軽に本に触れられる環境づくり 図書室前スペースに、可視化を意識した空間づくり。</li> <li>⑤ 地域と読書活動を通じての連携 絵本などの読み聞かせ活動（幼・小・高齢者施設など）や、近隣小・中との読書活動交流会。インターンシップ活動ともリンク。</li> </ol> <p>これらを通じて、活字からの学習という新しいツールの獲得や自発的な読書習慣を身に付けさせることで、さらなる自己実現支援を行う。夢や目標を持った生徒を育成し、未来を切り開く力の支援を行う。また、本を図書室から持ち出して生徒の目につく場所に持つていくことと教科と連携を強化することで生徒の図書室への人流をつくり、全国平均（35%）より10%も高い大阪の不読率（45%）の改善をめざし、生徒の学力向上や第1希望進路達成率の向上や地域連携にも寄与していきたい。</p>
<p><b>整備した 設備・物品</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各種書籍（文学作品の漫画本、本の読み方指南本、英語・漢字検定関連書籍）</li> <li>・英語多読速読用書籍（英語多読本・速読本、英字マガジン、英字漫画本）</li> <li>・図書館消耗品</li> <li>・アカデミックスペース用消耗品等</li> </ul>
<p><b>取組みの 主担・実施者</b></p>	<p>コア会議（将来構想委員会）・国際交流委員会・授業力向上PT・総務部（図書室担当）</p>
<p><b>本年度の 取組内容</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・初年度の活動の継続</li> <li>・W-UP（朝学）での読書活動の取入れ。</li> <li>・7限チャレンジ講習に多読・速読の講座を開設。</li> <li>・ブックレポート校内コンクールの実施。</li> <li>・一般図書の読書感想文コンクールの参加。</li> <li>・保育士、介護士、幼教などのインターンシップ活動として地元の幼・小・高齢者施設などで絵本などの読み聞かせ活動の実施。</li> <li>・これまでの取組みの検証と3年間を見通した読書活動や教科活動、進路指導の見直し。</li> </ul>
<p><b>成果の検証方法 と評価指標</b></p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①本校独自意識実態調査による「図書室を授業以外で利用しますか」の「ほぼ利用しない」を65%に。</li> <li>②英検・漢検の準2級以上合格者の増加。前年度プラス5名(30名)。4大・短大進学率67%に。(R3+5P)</li> <li>③外部学力診断テストにおける生徒の学力レベルの向上。国数英3教科C3以上の人数割合を3年時65%以上。</li> <li>④年間図書館貸し出し冊数や不読率。年間図書館貸し出し冊数2490冊（R3の3倍） 不読率65%。(R3-25P)</li> </ol>

<b>自己評価</b>	<p>①数値は70%とわずかに届いていないが、英語の多読用図書等のチャレンジ講習や授業活用など継続した取組みにより、図書室利用の推進は進んでいる。……………(○)</p> <p>②目標級の1次試験の合格者数はプラス10名(R4年度比)。進学率は希望者が少し減少しているが、一般入試まで頑張る生徒が大幅に増加した。……………(△)</p> <p>③R4:36%→R5:54%、目標に到達はしていないが大幅にアップしている。……………(○)</p> <p>④目標としていた数値を大きく割り込み、286冊、不読率78%という結果になってしまった。来年度は抜本的に対策変更を行う。今年度は貸出数増加のため、図書館専用のSNS(Instagram)を活用した広報活動でおすすめ図書の紹介等を行ったり、各学年フロアに移動図書館の設置、今年度も図書便りの発行に取り組んだりしたが、数値結果につながらなかった。……………(△)</p>
<b>次年度に向けて</b>	<p>・報償費の用途については、来年度も英検対策講座の講師費用となっている。来年度以降は学校の取組みの方針として、漢字検定は希望者のみの受験に切り替え、英検全員受験を継続し、英検の合格者の増加に焦点を絞り、W-UPも活用しながら、英語力の向上に集中して取り組んでいく。</p>

### 3. 事業費報告

<b>今年度事業費総額</b>	<b>160,000</b>	円
-----------------	----------------	---

#### 積算内訳

\* 決算科目(節)を明示し、節毎に積算内訳を記載すること。

	科目(節)	番号	内訳	単価	数量	金額
積算内訳	1 報償費	1	英検対策講座	¥16,000	10	¥160,000
		2				
		3				
						小計
					合計	¥160,000